

南半球便り（その 54）：トンガ支援

1 月 28 日

南太平洋のトンガでの火山爆発を契機に日豪協力が進んでいます。今日はその現状報告です。

1. 「ゲンキですかあ？」

キャンベラの大使公邸は日夜 24 時間、警備員が厳重に警戒をしてくれています。彼らの献身には本当に頭が下がります。門を出入りするたびに警備員に声をかけるようにしているのですが、私が挨拶する前に必ず日本語で話しかけてくれる女性警備員が二人います。実は、その二人ともトンガ出身なのです。

「ゲンキですかあ？」アントニオ猪木さんばりの明るい挨拶に元気をもらう毎日です。



在豪日本国大使館で警備員として勤務するエレニーさん（出典：在豪日本大使館）

2. 火山大噴火

1 月 15 日、そのトンガで海底火山の大爆発が発生したことはご存じのとおりです。トンガから遠く離れた日本でも多くの海岸沿いで津波被害が発生したとうかがい、影響の大きさに改めて問題の深刻さを痛感しています。

駐トンガ大使の宗永大使は、赴任前の在外公館長研修を東京で一緒に受けた間柄であり、財務省出身の霞ヶ関先輩。とにかく安否が気になって連絡を試みたのですが、豪州からはメールも電話もつながりません。数日経って漸くつながりました。【宗永大使の臨場感あふれる報告は、[ここでご覧いただけます。](#)】



自衛隊の到着を出迎えるトンガ首相等及び宗永大使（出典：在トンガ日本大使館）

3. 自衛隊出動！

通信が断絶され、火山灰に包まれたトンガにいち早く援助に出動したのは、近隣の豪州とニュージーランド（NZ）でした。両国には津波等、噴火の被害が特段生じたわけではないのですが、トンガと同じ南太平洋に位置する隣組。公邸警備員にトンガ出身者がいることからうかがえるとおり、人的つながりにも深いものがあります。

嬉しかったのは、東京の関係者の尽力により、豪・NZ に続いて日本の自衛隊からも支援が届けられたことです。

空では、C-130H 輸送機が 2 機出動。日本からまず豪州ブリスベンのアンバレー空軍基地に飛び、そこからトンガに既に二度空輸を実施しました。一回目は飲料水を 3 トン、二回目は飲料水 2 トンに加えて、高圧洗浄機 20 台、防塵マスク、手袋、ゴーグル等を届けました。また、日本が誇る C-2 輸送機も 2 機出動。日本と豪州との間の輸送に当たっています。

また、海では、輸送艦「おおすみ」がエア・クッション揚陸艇（LCAC）二隻、CH-47 ヘリコプター2機、高圧洗浄機 60 台、飲料水 10 トン等を載せ、現在トンガに向けて航行中です。トンガ到着の暁には、大いに歓迎されることでしょう。



トンガに向け出航する輸送艦「おおすみ」（出典：防衛省）

4. 日豪、そして同志国の協力

トンガへの人道支援、災害救助に当たって各国の支援内容を調整すべく、国際調整所が豪州に設けられています。そこで日本は豪州、NZ、米国、英国、仏、フィジーと密接に連携し、必要な支援をトンガに届けるよう被災状況及び現地活動に係る調整を行っています。



キャンベラに到着した現地調整所連絡官と出迎えた豪統合作戦司令部リブランド准将
(出典：在豪日本大使館)

前述の第一回目空輸に当たっては、在豪州大使館の麻生防衛駐在官（海上自衛隊出身）も C-130H 機に乗り込み、ブリスベンからトンガに飛びました。幸い、在豪州大には陸・海・空の各自衛隊出身の防衛駐在官に加えて、内局出身の参事官も配置されており、こうした体制を駆使してトンガ支援業務が円滑に進められるよう腐心しています。

私からも豪州政府幹部に日本の支援を告げたところ、トンガ支援に当たっての日本の貢献の重要性のみならず、日豪協力の象徴的事案になるとして大歓迎されました。



アンバレー空軍基地において豪軍と調整する隊員（出典：豪国防省（左）、防衛省（右））

5. コロナとの戦い

ただし、難しいのは、噴火の規模が甚大であっただけではなく、コロナ禍で支援を進めざるを得ない点です。トンガの国境規制は厳しく、支援物資を届けるべくトンガ入りした人員がトンガ側と接触することさえ許されていません。



歓迎に応える隊員（出典：防衛省）

飲用水の引き渡し（出典：防衛省）

そんな中で、オミクロンが猛威を振るい、支援に携わる豪州軍関係者にも自衛隊関係者にも、コロナ陽性者が発生してきている状態です。厳しい制約の中で如何にして実効的な支援をしていくか、誠に困難な課題ですが、そうした課題にも共に取り組んでいるのが今の日豪両国です。

山上信吾